

JAPAN TODAY

2021年 MONTHLY 10,11,12月号

ジャパン・ツディ編集部 村井実・編集長 ①160-0004 東京都新宿区四谷4の6の1 四谷サンハイツ1205号
新聞は時代を映す鏡である！(ジャパン・ツディは全国47都道府県庁、地方自治体に配布しています)

皇室を餌食にしているマスコミ

戦犯奉る靖国参拝は 天皇に弓を引くこと！



村井 実 (むらい・みのる)
北海道日高村(現・日高町) 番外地生まれ。昭和43年、早大卒。毎日新聞記者を経て昭和48年、時事通信記者。警視庁記者クラブを経て国会記者。田中角栄から自民党歴代首相を取材。その間、ロッキード事件、田中金脈事件、リクルート事件を担当。宮内庁記者。昭和63年米国スタンフォード大学フーパー研究所入所。米国大統領のフォード、カーター、ブッシュ、さらにケネディー族や英国のエリザベス女王、サッチャー首相などインタビュー、単独会見。早大など3大学で教鞭をとる。「ジャパン・ツディ」編集長。

3年ほど前から皇室の秋篠宮家の長女、眞子さま騒動で週刊誌、新聞などのマスコミが鬼の首を取ったように報道して世間を騒がせている。

皇室ルートの報道などしても、これほど熱して報道すべき問題なのか、私は首をかきつけている。

元をたどると、眞子さま個人の問題というよりも眞子さまの結婚相手となる男性、小室圭さんの母親がX氏から400万円借りていた—として問題は圭さんの母親とX氏の金銭問題のトラブルが発火点。

それを新聞、週刊誌など、テレビを含めて、おもしろおかしく記事にするものだから、国民の、それも女性たちが焼けて眞子さま問題を読みあさってきた。嫁、家族問題は女性特有の好奇心が動く。

私も昭和52年〜同53年ごろ、国会から宮内庁記者クラブにまわされ、当時の昭和天皇の晩年を多少なりとも、皇室関係記事として書いてきた。

そこでなぜ、皇室記事が日本列島に流布されるかという、皇室ものは通常の倍以上、売りが多く、国民の関心度が高いからに他ならない。

それをさらに細かく分析すると、皇室ものは手っ取り早くカネ、ゼニになるので出版界、新聞界はやめられない。

コロナ不況、東京オリンピック中止込め、まさに出版界不況につながり、皇室ものは誰にも批判されない一条の光だった。

そうした環境の中でも、皇室内の女官らが情報を秘密裡に外に流して裏で高級アルバイト料が出ているとも耳にする。

言葉が悪いが、ペールに囲まれた皇室ものはマスコミ、週刊誌、出版物のエンジンにされてきた、と私は思っている。

あれから40年ぐらいたった今、再び眞子さま騒動で眞子さまは「さし者」にされ、複雑性P

TS&Dという精神的病気をかかえている。

私は眞子さま問題について、これまで沈黙を続けてきたが、今回、あえてペンを執った。

それは最近、夫の小室圭氏から「弁護士を通じてX氏の400万円は解決した」と発表されたから、今後、双方(X氏と圭氏の母親)はいささか関係ない—となった。

こうして今日(11・14)眞子さまは夫と共に米国へ飛び立った。

眞子さまは皇室から受けられる1億2000万円を辞退して受け取らず、夫の「愛」を手にいったのだが「めでたし」で、何も言うことがない。

英国王室の例をとって、エリザベス女王の孫のヘンリー第2王子も近年、王室を離脱してアメリカに渡った例もある。

眞子さまも結婚を契機に日本皇室を離れた。眞子さまに非はない。今後、マスコミは眞子さまを追う必要もないのだから、さっさと引いてほしい。

今回、眞子さまの夫が米国の弁護士試験に失敗したとしても、人生には成功も失敗も多々ある。驚くような話ではない。

テレビ(フレーム)の中で、最近、玉川某さんは「この問題は、この程度にして、もっと他の重要問題に目を向けて」と発言したが、その通り。皇室を「見せ物」にしてきたマスコミは、このへんで終わりにしてほしい。

そんなことより私から提言がある。昨年の2〜3月頃、私は「コロナ禍は有事並みの戦争である」と活字にして宮内庁に文書を送りつけた。

内容は英のエリザベス女王でさえ「今世紀、イギリスの最大の危機。コロナ禍を制圧せよ」と国民に向かって機をばした。

これにならって私は昨年夏、さらに今年春の2回にわたり、宮内庁あてに「憲法の制約があるものの、天皇自ら国民に向かってコロナ禍防止のため、マスク掛け、集団飲酒などの禁止を天皇の名で呼びかけて下さい」と伝えた。

これに対し正面からの回答ではなかったが、宮内庁は天皇、皇后の言葉で宮内庁内で「講話」の形をとって国民にテレビで伝えたことと感謝する。

さらに、もう一つ思いつけ加えて言うと、平成天皇退陣の時、平成天皇は「天皇といえども生命に限りある」として、平成天皇が退陣、皇太子を令和天皇とした。しかし、これは臨時の安倍首相は平成天皇に限り、一代のみの途中退陣—とした。従って、この問題は現在もウヤムヤになっており平時に「天皇二世」問題を検討すべき時代にきている。

また、女性天皇が問題になったが、日本歴史上、女帝天皇時代が5〜6回あり、こうした重要問題を政治家、学者、歴史家、マスコミが集中して討論してほしい。眞子さま問題なんて右の問題に比べると小さすぎる。

最後に、重要問題—昭和天皇は靖国神社に昭和53年を最後に以後、靖国参拝はしていない。なぜなら太平洋戦争の戦犯入りを厚生省が、この靖国神社に奉ってしまったからだ。歴代天皇は、これに反発している。

私も敗戦後の日本以降、天皇主義者であり、政治家の靖国参拝は皇室に弓を引くことになる。政治権力を持つ者は、上記天皇の行動言葉を心して聞け！

令和3年(2021)11月15日

× × ×
あれから40年ぐらいたった今、再び眞子さま騒動で眞子さまは「さし者」にされ、複雑性P

× × ×
今回、眞子さまの夫が米国の弁護士試験に失敗したとしても、人生には成功も失敗も多々ある。驚くような話ではない。


× × ×
さらに、もう一つ思いつけ加えて言うと、平成天皇退陣の時、平成天皇は「天皇とい

村井 実・銀座セミナー

場所・東京都中央区銀座5の7の2、三愛ドリームビル3F
(最寄駅、地下鉄銀座線、銀座駅A1出口)

日時・令和3年12月20日(月) PM2:00~4:00
令和4年1月20日(木) PM2:00~4:00

会費・3,000円(定員20人)



59年間も毎月1回の連続交流会・上原貞夫「15日会」会長あっぱれ!

上原会長は昭和9年4月5日、群馬県吾妻郡東吾妻町生まれ。父は群馬県内の警察署長(下田、長野、沢川など)として活躍。今の上原会長は官が少し違ったが、87歳にして健在。土日は生まれ故郷の上州で畑を耕しているが、平日は奥さんと一緒に東京・永田町の事務所に向き出す。夫妻共に人の面倒見よく、人当たりがよい。そこから上原人脈が生まれ、人間脈となった。

上原会長は人生航路をたずねると、上原さんが社会に出て来た20歳代は戦争の終わった昭和30年代。この頃、日本はテレビ、センタクキ、レイゾウコなどの3種の神器がドッと出現して、電気街のメッカ、東京・秋葉原は「白もの」で埋めつくされた。この時代、上原さんは電気の3神器を中心にして大手メーカーの宣伝マンとして、秋葉原とメーカー間を東奔西走。そこで上州のミスター上原の名が売れ出す。

昭和34年、正田美智子さん御成婚のミッチャップム。世間の合言葉は「白黒テレビで豪華な結婚式を見ましよう」。さらに昭和39年の東京オリンピックで「カラーテレビで見よう」のキャッチフレーズ。敗戦後の日本経済復興ブームであり、青春の上原ブームの時代でした。上原さんが第一回の「15日会」をスタートしたのは、昭和38年8月だった。その時の会場は今の自民党本部でした。

上原さんは格別、自民党の応援団ではなかったが、この頃、上原さんの故郷から選挙するとは思っていなかった上原さんより3歳年下の小淵恵三が初当選したこと、早大の雄弁会クローブも参加してきた。同期、同年代に森喜朗、石川(当時、四国のみ松治郎、代議士秘書)、武部勲、北海道(当時、三木武夫事務所秘書)、塚田徹(塚田十一郎・新潟県知事の次男)、西岡武夫、長崎、橋本龍太郎、岡山、志賀節、岩子明(あきら)代議士も各代議士も多忙になりすぎて、やがて一般社会人も参加するようになり、年輪職業、出身地を問わず「来たい者は来たい」という上原イズムの自然体が浸透していった。

だから参加料3、4千円程度で(今も5、6千円程度)、会長は赤字覚悟の15日会パーティだ。私が取材した(10・29)中で、右にあげた有名人で今なお健在なのは武部元代議士、森喜朗元首相と上原会長の3人だけ。あとは故人となった。この59年間で休んだのは、コロナ禍のため昨年の4月5月と今年の5月6月だけ。これも会場がコロナ閉鎖されたため、やむなく中止したもの。

さかのぼれば59年間の苦勲で続けてきた「15日会」は、半世紀前の「国鉄ストライキ」の時代や「台風の日」まで進行してきたというのだから、「15日会」の風雪の歴史はずいぶん長い。ここまでは「15日会」の年輪と共に生きてきた上原会長は、奥さんが2カ月前から入院しているものの「やめられなくなった。これも1つの執念ですよ」と笑う。晩年の上原会長は、重厚感が出て和服姿がよく似合う。

上原会長は上原事務所に近い国会議事堂を見つけた。人生の政治結核として次のように短評した。①政界がおもしろくなくなった。②昔は派閥の長に個性派が多かったが、今はそういう人がいなくなった。③総理を見ていても、中曽根元首相までは評価できるが、それ以降はスケールが小さい。④世界を回しても中曽根さんまでは「外交」が出来て、見劣りがなかった。

右の言葉が上原会長がこの世の政界に残す金言となると思うし、私も同感だ。(余談だが、私、村井は若い時代、毎日新聞記者として群馬でスタート。当時、福田起夫、中曽根の両代議士は自民党の派閥の長。福田、中曽根は個別に月1回、高崎で地元記者を集めて、今月の永田町の実業家と称して勉強会を開いてくれた。今となっては私の人生の宝となった。その後、阿氏は永田町で首相となったが、私もやがて追うようにして首相官邸記者となり、福田、中曽根、小淵の各首相と再会する運命となった)

参考)群馬県内の某氏の結婚式の集合記念写真を見せられた。その写真には上原会長の他、首相にまで登りつめた青年3人(小淵恵三、森喜朗、橋本龍太郎)が映っていたが、私は今回、上原さんを含め、若き4人の青年の顔を見つけれなかった。それだけ、この写真は古く宝物の価値がある。たった一枚の写真の中に、未来の首相となる3人が映っているとは奇跡だ。

この原稿を書いている2日後(10・31)総選挙の投票日である。どんな顔がれが国会議事堂に登場するか!

群馬県内の結婚式の集合写真に未来の首相にまで登りつめた青年3人(①小淵恵三、②橋本龍太郎、③森喜朗)と一緒に写っていた。これは奇跡だ。④上原会長が写真を提供してくれた。(昭和38年撮影)



アナーキズム コロナ禍の日本は無政府主義

死者1万6千人は安倍、菅、小池の後手後手の犠牲者

このコロナ対策は医療を軽視した政治家の無策と後手後手は、政治が日本にないに等しい。オリビックは終わってもコロナは終わっていないのだ。冬に向けて第6波までさやがれていく。

「コロナ禍の最中野党はどうか。LGBT(同性愛)とか、結婚の夫婦名の別称問題など、重箱の隅をついたようなことを政策に掲げているが、日本国家が今、北朝鮮によるミサイル攻撃の標的にされたり、中国軍機の台湾攻撃の緊迫の走る時、野党は何をやるというのか。」

「この野党は自民に向かって結束するわけなし。バラバラ野党。国家の一番重要な自下の大問題、コロナや国防から見て、まるで学生運動が学芸会のような珍風景である。トホホ……としか言いようがない。」

「私に言わせれば、日本は無政府主義だ。政治家たちは他人ごとみているだけだ。私は昨年4月、『コロナ禍は弾丸のない空襲機末戦争』と見出し警告のタイトルで、私の発行するジャーナルで、私の発行するジャーナルで、私の発行するジャーナルで……」

「このコロナ禍の死者1万6000人に対して涙する政治家を見たことがない。政治家たちは他人ごとみているだけだ。私は昨年4月、『コロナ禍は弾丸のない空襲機末戦争』と見出し警告のタイトルで、私の発行するジャーナルで……」

「このコロナ禍の死者1万6000人に対して涙する政治家を見たことがない。政治家たちは他人ごとみているだけだ。私は昨年4月、『コロナ禍は弾丸のない空襲機末戦争』と見出し警告のタイトルで……」

「このコロナ禍の死者1万6000人に対して涙する政治家を見たことがない。政治家たちは他人ごとみているだけだ。私は昨年4月、『コロナ禍は弾丸のない空襲機末戦争』と見出し警告のタイトルで……」

「このコロナ禍の死者1万6000人に対して涙する政治家を見たことがない。政治家たちは他人ごとみているだけだ。私は昨年4月、『コロナ禍は弾丸のない空襲機末戦争』と見出し警告のタイトルで……」

「このコロナ禍の死者1万6000人に対して涙する政治家を見たことがない。政治家たちは他人ごとみているだけだ。私は昨年4月、『コロナ禍は弾丸のない空襲機末戦争』と見出し警告のタイトルで……」

国民を路頭に迷わせた敗戦後の最低な内閣

村井 実

